

補聴器購入助成 当初予想を大きく上回る見込み

市議会厚生常任委員会での議案審査が5日、行われました。

注目したことの一つは軽・中等度難聴者を対象にした補聴器購入費助成事業についての質問です。この事業は私費が一般質問で二度にわたってとり上げられたことや「上越市でも補聴器助成制度をつくって」という世論があつて、今年の4月から実施されています。

この制度は、身体障がい者手帳を持たない人で、両耳の聴力レベルが30デシベル以上の人が対象、最高額で5万2900円を助成することになっています。当初予算では、対象者は90人を見込んでいましたが、申し込みは最終的に、その数字を大きく上回る216人となる見込みであることが明らかになりました。担当課によると、すでに

予算オーバーしたので、他の経費を流用して対応しているとのこと。これは平良木議員に答えたものです。

12月議会に提案された一般会計補正予算には、同事業について155万円の追加予算が計上されました。左上のイラストは福祉部関連議案の審査の様子です。久しぶりに、クレヨンで描いてみました。

三歳児健診の視力検査に 屈折検査機2台導入

注目した二つ目です。上越市は来年度から、三歳児健診の視覚検査において、これまでの絵カードの検査セットによる視力検査に加え、屈折検査機器を使った検査を行い、視覚異常の早期発見と治療を進めていく方針であることが明らかになりました。

12月議会の一一般会計補正予算には屈折検査機2台の購入費、278万円が計上されています。質問で明らかになりましたが、新潟県内では7市町村で屈折検査機を導入済みとのこと。左のイラストは購入予定の屈折検査機を手にする女性です。



【ニシキギ】ニシキギ科の落葉低木。漢字で「錦木」と書きます。「カミソリノキ」とも呼ばれています。冬を前にしたこの時期、小さな赤い実をつけているので目立ちます。この実を小鳥たちが食べ、種をあちこちに運んでくれます。花期は5月～6月、小さな淡い黄緑色の花を咲かせます。花言葉は「あなたの魅力を心に刻む」「危険な遊び」などです。

通園バスにブザー設置へ

三つ目。全国ニュースで問題となった通園バス内での園児置き忘れ事件。これを教訓に、上越市では、来年4月から通園バスにブザーを使った安全装

置を公立保育園の通園バス24台に設置します。また私立保育園及び認定保育園での通園バスには安全装置設置補助を行う予定です。委員会では、「子どもが必ず下りたか。保育室に入っているかの人数確認をどうしているか」などの質問が出ていました。

下水道、ガス料金など来年4月から引き上げへ

市は今議会に、「下水道事業の今後の収支見通しを踏まえ、持続可能な事業経営に収入を確保するため」との理由で、下水道使用料、排水処理施設使用料、浄化槽使用料を来年4月から引き上げる議案を提出しています。これに対して農政建設常任委員会では、「物価高のこの時期になぜ値上げするのか」「いま上げれば、行政が物価高で苦しむ人たちに追い打ちをかけることになる。ス

ルーした方がいい」などの声が相次ぎました。しかし、採決では反対者はいませんでした。理解できませんでした。

また、ガス水道局も液化石油ガス料金、都市ガス料金の改定案を出しました。液化石油ガス料金は平均改定率が21.02%、都市ガス料金は平均改定率が42.15%（実質平均改定率は△1.11%）です。これも全員賛成でした。



今回の引き上げは弱者のみならず、下水道などを使用しているすべての人たちに負担が重くかかるものです。みんなが困っている、こういう時こそ、80数億円にもなっている財政調整基金を思い切って取り崩し、引き上げを抑え、使用者全体を支援すべきです。

はしづめ法一の 活動レポート

No.2089 2022.12.11
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のいかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL http://www.hose1.jp/

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七三六回

花と実と

ひと月ほど前のことでした。地元にある池の周りを散策しているときに濃い紫色の実がツルからぶら下がっていました。

そこでじっくり観察すれば、何の実か、大体の見当がついたのかも知れませんが、私はスマートフォンで撮影しただけで、前に進んでしまいました。というのも、すぐ近くに咲いていたオヤマボクチの花に大きな蜂が顔を突っ込み、蜜を吸っている姿が目に入ったからです。

再び紫色の実のことに関心が向いたのは家に帰ってからです。散歩時に撮った写真を一枚いちまい見ている、「はて、これは一体何だろう」と思ったのです。実(み)はツルにつながっていて、豆のような形をしている。まだサヤは破れていない。葉っぱは三つ葉アケビのようだ。そう思いながらインターネットで「ツル 紫色 実」と入力し、検索してみました。

すると、一番上に出てきたのは、「二月のつる植物・青紫色の実」というタイトルで書かれたブログでした。そこには写真も載っていて、私が写真に撮ったものとそっくりのものが写っていました。それも、サヤが破れて中のタネが見える状態になっています。

記事を読み進み、この植物の名前が「サゲであること」を知り、「なーんだ、あれか」と思いました。夏に細長い黄色の花を咲かせる、私が何度も見たことのあるツル性植物だったからです。植物の实のことを調べて、「なーんだ」と思ったのは今回が最初ではありません。ツルアリドオシのときもそうでした。

この時は数年前の晩秋でした。里山の縁を見ながら、アキノキリンソウやノコンギクが最後の花を咲かせている様子を見て、写真を撮り続けていたときです。直径六、七ミリの小さな赤い実が目の前にあることに気づきました。

晩秋の小さな赤い実とくれば、ヤブコウジだ、そう思っていたのですが、どこか違うなとも思いました。この実をつけた植物はどうみてもツルだったからです。ヤブコウジのように上の方に向かって茎を伸ばすことはなく、横にすっと這っている、そんな感じでした。

これもインターネットで調べて、じきに判明しました。六月から七月にかけて咲くツルアリドオシだったのです。このツルアリドオシの花は、枝先にかわいい白い花を必ず二個ずつ咲かせるので、一度見たら忘れることがありません。「この花の実だったのか」とうれしくなったものです。

最近ではニシキギとヘクソカズラでも同じような体験をしました。ニシキギ(錦木)の場合は、近くの市道脇でニミほどの小さな赤い実を見つけ、名前を確認してから花を探しました。じつは、この木の花と思われる写真を今年の五月に撮っていました。薄い黄緑色の小さな花でした。インターネットで確認すると、間違いなくニシキギの花でした。

ヘクソカズラ(屁糞葛)の場合は農道脇でした。黄褐色の二、三ミリの実がたくさんついているツルを見て、何だろうと考えました。こちらは、同じ場所で花が咲いている姿を思い出したので、調べることなく、「あの、小さな花の実か」とすぐにわかったのですが、実についてはこれまで何度も見ていながら、ヘクソカズラの花と結び付けて考えることはありませんでした。

考えてみれば、野の花に興味を持ち始めてから二十数年、見たことのない花を追いつついたら、その花が咲き終わるとどんな実をつけるのかまで追求すると、その花の面白い特徴などが見えてくるのに……。七十年代前半の私にとって、野の花の世界は、最近、どんどん広がっていきます。

高田世界館で「百姓の百の声」上映中

柴田昌平監督のドキュメンタリー映画、「百姓の百の声」を高田世界館で観てきました。

柴田監督の映画は数年前、柿崎コミュニティプラザで「千年の一滴 だししょうゆ」を観て以来です。「百姓の百の声」では、生き生きと農業に取り組んでいるコメ、野菜などの農業者が何人も紹介され、こういう農業者が広がっていけば、日本の農業には未来がある、と思いました。今回も柴田監督の映画づくりの丁寧さと誠実さを感じました。映画は16日までです。まだの人はぜひご覧になってください。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月30日(水)	12月7日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.040	0.047
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.063	0.053
高士分遣所	0.053	0.057



直江津写真フェア

上越写真連盟主催の「直江津写真フェア」を観てきました。吉川区在住のkさんなど知人や友人が何人も上越各地の風景やイベントなどの素敵な写真を出展していたのでうれしくなりました。

春よ来い

第七三六回

花と実と

ひと月ほど前のことでした。地元にある池の周りを散策しているときに濃い紫色の実がツルからぶら下がっていました。

そこでじっくり観察すれば、何の実か、大体の見当がついたのかも知れませんが、私はスマートフォンで撮影しただけで、前に進んでしまいました。というのも、すぐ近くに咲いていたオヤマボクチの花に大きな蜂が顔を突っ込み、蜜を吸っている姿が目に入ったからです。

再び紫色の実のことに関心が向いたのは家に帰ってからです。散歩時に撮った写真を一枚いちまい見ている、「はて、これは一体何だろう」と思ったのです。実(み)はツルにつながっていて、豆のような形をしている。まだサヤは破れていない。葉っぱは三つ葉アケビのようだ。そう思いながらインターネットで「ツル 紫色 実」と入力し、検索してみました。

すると、一番上に出てきたのは、「二月のつる植物・青紫色の実」というタイトルで書かれたブログでした。そこには写真も載っていて、私が写真に撮ったものとそっくりのものが写っていました。それも、サヤが破れて中のタネが見える状態になっています。

記事を読み進み、この植物の名前が「サゲであること」を知り、「なーんだ、あれか」と思いました。夏に細長い黄色の花を咲かせる、私が何度も見たことのあるツル性植物だったからです。

植物の実のことを調べて、「なーんだ」と思ったのは今回が最初ではありません。ツルアリドオシのときもそうでした。

この時は数年前の晩秋でした。里山の縁を見ながら、アキノキリンソウやノコンギクが最後の花を咲かせている様子を見て、写真を撮り続けていたときです。直径六、七ミリの小さな赤い実が目の前にあることに気づきました。

晩秋の小さな赤い実とくれば、ヤブコウジだ、そう思っていたのですが、どこか違うなとも思いました。この実をつけた植物はどうみてもツルだったからです。ヤブコウジのように上の方に向かって茎を伸ばすことはなく、横にすっと這っている、そんな感じでした。

これもインターネットで調べて、じきに判明しました。六月から七月にかけて咲くツルアリドオシだったのです。このツルアリドオシの花は、枝先にかわいい白い花を必ず二個ずつ咲かせるので、一度見たら忘れることがありません。「この花の実だったのか」とうれしくなったものです。

最近ではニシキギとヘクソカズラでも同じような体験をしました。ニシキギ(錦木)の場合は、近くの市道脇でニミほどの小さな赤い実を見つけ、名前を確認してから花を探しました。じつは、この木の花と思われる写真を今年の五月に撮っていました。薄い黄緑色の小さな花でした。インターネットで確認すると、間違いなくニシキギの花でした。

ヘクソカズラ(屁糞葛)の場合は農道脇でした。黄褐色の二、三ミリの実がたくさんついているツルを見て、何だろうと考えました。こちらは、同じ場所で花が咲いている姿を思い出したので、調べることなく、「あの、小さな花の実か」とすぐにわかったのですが、実についてはこれまで何度も見ていながら、ヘクソカズラの花と結び付けて考えることはありませんでした。

考えてみれば、野の花に興味を持ち始めてから二十数年、見たことのない花を追いかけることに夢中になっていました。花を見つけたら、その花が咲き終わるとどんな実をつけるのかまで追求すると、その花の面白い特徴などが見えてくるのに……。七十年代前半の私にとって、野の花の世界は、最近、どんどん広がっていきます。

高田世界館で「百姓の百の声」上映中

柴田昌平監督のドキュメンタリー映画、「百姓の百の声」を高田世界館で観てきました。

柴田監督の映画は数年前、柿崎コミュニティプラザで「千年の一滴 だし しょうゆ」を観て以来です。「百姓の百の声」では、生き生きと農業に取り組む、いつも笑顔で頑張っているコメ、野菜などの農業者が何人も紹介され、こういう農業者が広がっていけば、日本の農業には未来がある、と思



いました。今回も柴田監督の映画づくりの丁寧さと誠実さを感じました。映画は16日までです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月30日(水)	12月7日(水)
上越南消防署	0.050	0.057
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.040	0.047
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.040	0.047
名立分遣所	0.063	0.053
高士分遣所	0.053	0.057

(株)よしかわ杜氏の郷の民間譲渡について

上越市は7日、杉田議員の一般質問に答え、(株)よしかわ杜氏の郷の市保有株式の民間譲渡の途中経過について明らかにしました。

それによると、企画提案型のポロポータル方式を用いて公募を行ったところ、地元の株式会社源建設のほか、市内事業者1者、県外事業者2者の合計4者から応募があり、選定委員会の審査の結果、最

も優れた提案と認められた源建設が優先交渉先の候補者として選定されたとのことでした。

同社は9つ全ての項目で最も評価が高く、所在地が吉川区内であることや、株の譲渡価格が高額だったことに加え、「経緯・歴史をよく理解している」「吉川全体を考えている」「地元の強みがある」などの声があったとのこと。